

「天に宝を積む」

2022年6月

高校教頭 慎 繁範

あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。

(マタイによる福音書 6章 19～21節)

上掲の聖書箇所において、古い訳では「富」ではなく「宝」という言葉が使われていました。一般的に「宝」というと、お金や財産、地位や名誉などを思い浮かべることでしょう。こういった「宝」は人間を幸福にするのでしょうか。幸福学研究の第一人者である慶應義塾大学の前野隆司教授は、次のように言っています。「頑張ったことによって得られる金・地位・名誉などは、短期的には幸せをもたらすが、この幸せはもともと長続きしないように、人間の心はできている。なぜなら、これらは人と戦って、勝った結果得たもので、次に備えなければ、また新たな脅威がやってくるかもしれない、『まだ足りない、もっと欲しい』と求め、いつまでたっても満たされないように、脳ができている」我々が熱心に追い求めている「宝」は、実は不安定なものであり、長期的に本来の幸せに導くものではなさそうです。

また、地上に宝を積むことの虚しさをあらわしている有名なたとえ話が、ルカ福音書にあります。「ある金持ちの畑が豊作であった。そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ』しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』人は必ず死にます。そのとき、人は頑張って蓄えた地上の宝を持っていくことや、何かの役に立てることはできないのです。

20節に「自分のために天に宝を蓄えなさい」とあります。天に宝を「蓄える」にはどのようなすれば良いのでしょうか。それは、「与える」ことによってだと聖書は言います。全く逆のことにように思えますが、宝を「蓄える」＝「与える」だということです。イエスが当時の金持ちの人に言った言葉です。『もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。』（マタイ福音書19章） 「与える」ことは犠牲を伴います。簡単にできることではありません。しかし、お金がなくても「与える」ことはできます。自分の賜物・能力を使って、隣人を愛することは私達にもできることではないでしょうか。

お金や地位や名誉を追い求めて得られる幸せは短期的であるが、人と人とのつながりや、共同体を通して得られる幸せは長期にわたって続くと言われていています。つまり自分のためではなく、他人の利益を追求するときに長期的な幸せが得られるのです。また、自分の損を顧みず他者のために行動することは、脳内物質のオキシトシンの発生にもつながるそうです。オキシトシンはストレスを解消させる物質と言われており、人間の脳はもともと、自分だけの利益より、全体の利益を優先するようにできていると、科学的にも分析されているのです。

イエス・キリストは自分の栄光を求めず、悩み苦しみながらもご自身が十字架にかかる決断をされました。私達のためにご自身をささげてくださいましたのです。このような究極の自己犠牲は私達にはできませんが、イエスを模範として、隣人を愛して、天に宝を積む人生を歩んでいきましょう。